共生の森の植物　平成22年1月24日

トウネズミモチ（モクセイ科）

光にかざすと葉脈が透けて見えるところがネズミモチとの区別のポイント「透ネズミモチ」と覚える

「共生の森」で勢力を広げている木のひとつ。鳥が種を運ぶことからランダムに広がってきている。「共生の森」には公園や街路樹から鳥に運ばれてきたのか。漢字で書くと「唐鼠黐」。名前の由来は【樹皮から鳥モチを作った「モチノキ」】。に葉が似ている→【鼠の糞のような実をつける「ネズミモチ」】。に良く似ている→【中国から来た木】ということで「トウ・ネズミ・モチ」。明治時代に中国からやってきた。ネズミモチと比べると、実が丸く、葉を太陽に照らすと主脈、側脈が光に透けて見える。樹皮、葉、実は漢方薬として用いられる。

トックリバチの巣
泥でできている

ミノムシ
（チャミノガ）

ナナホシテントウ
暖かい日には活動

モズ
はやにえは見つからず

ふじ棚のフジ

フジの実は熟して乾燥すると、サヤがはじけて種を飛ばす。この時期にはじけずに残っている実がある。

残っている実のサヤを割ってみると虫の幼虫が入っている。この虫は自分が入るとフジの実が、はじけなくする、なにかの技を持っているよう。

ただ時々、なにかの都合で失敗して、冬にはじけてしまい、大変ことになってしまった虫もいる。

昆虫の種類は不明。ゾウムシか？

みかけた植物・生き物

冬の　センダン

冬の　ヌルデ

ナンテン

タブノキの芽

神戸方面がよく見えた

「共生の森」の植物　平成22年2月14日

コセンダングサ
「くっつきムシ」
服についている

トベラ（トベラ科）

葉は枝先に集まり少し反る

実（写真は 12 月）

海辺に自生する植物のひとつ。「共生の森」では、初期の植栽から植えられている。写真の木は平成 16 年 3 月に植えられたもので 6 年が経ち、人の背たけほどに成長している。乾燥にも強よく刈り込みにも耐えることから、街なかでも道路沿いや公園などで植えられている。種は鳥に運ばれるというが、「共生の森」でトウネズミネモチなどのように自然に広がっている気配はない。漢字で書くと「扉」。名前の由来は節分に枝を扉に差して邪気を追い払ったことから「トビラ」が「トベラ」に変化したとのこと。

学名も Pittosporum tobira　トビラ。

7月 26 日に草刈りした場所

草刈り後にもう一度草が生えて、その草が枯れている。コセンダングサが多い。

いち度、草を刈っているので草が木の背丈を大きく越えることはない。

9月 27 日に草刈りした場所

草刈り時期が遅かったため、今、丈の高い草は少ない。下草はみどり色。ナワシログミの実が少し大きくなってきていた。

11月に草刈りした場所

草刈りの時期を完全に逸していたので今は背の低い草しかない。ホトケノザが生えていた。こうゆう環境を好んで生えてくる植物もある。

みかけた生き物・植物

越冬組みのツチイナゴ
暖かい日には活動

イラガのマユ
マユで冬越し

ナンキンハゼの実

伐られたセンダンの枝
9 年で径約25cmに成長

2月14日の植栽場所

通常植え。2m2に 1 本

下刈り労力を省く為のサークル植え。直径3mに 15 本植栽

海辺の植物、里山系の植物18種類、約1760本植栽

「共生の森」の植物　平成22年3月27日

クスノキ（クスノキ科）

日本の常緑広葉樹の中で一番大きくなる。神社などに植えられており、各地に巨樹が残る。街路樹、公園など、街の中でもよく目にするが、山の中で見かけることは少ない。かつてはクスノキから樟脳が採られた。葉の特徴は、ちぎると樟脳の香りがすることと、葉脈が３本に分かれており、その分岐点に「ダニ部屋」と呼ばれるダニの住む部屋がある。写真のクスノキは自然に生えた。種が鳥に運ばれてきたのか。

見かけた植物・生き物

サクラ

モモ

ヤブツバキ

ボケ（自然生え）

ナワシログミ

イスノキ(花)
葉に虫コブがないので判別が難しい

キジが通った後に道があった。何かの獣道をたまたま通ったのか、キジにも通勤経路があるのか。

ウグイス

ジョウビタキ

ヒバリ

ムクドリ

ツグミ（多かった）

チョウゲンボウ

植栽地を歩いていると、草むらから飛び立ちあっとゆう間に植栽地の反対側に姿を消すがっちりした鳥がいる。低空飛行で飛ぶうしろ姿しか見ることができない。コミミズクか？

ナヨクサフジ

カラスノエンドウ

ホトケノザ

セイヨウタンポポ

アブラナ

ノゲシ

スイセン

スイセン

ナツグミ

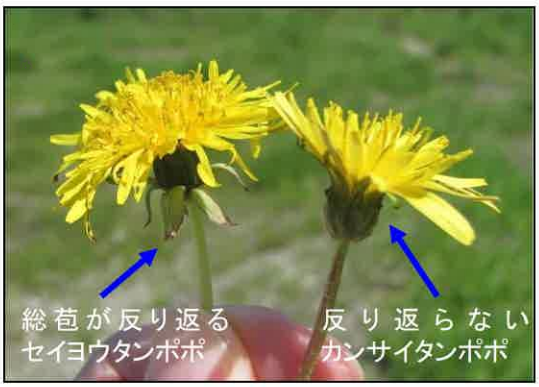
H21 春　サークル植え

去年サークル植栽した場所。マルチングの効果がまだみられた。
※草刈り１回実施

「共生の森」にも春がやってきた

「共生の森」の植物　平成22年4月25日

セイヨウタンポポ･カンサイタンポポ（キク科）



普段どこでも見かけるタンポポは、セイヨウタンポポ。ヨーロッパ原産で、明治時代に食用として持ち込まれた。カンサイ(在来)タンポポが年に一時季しか花が咲かないのに対し、セイヨウタンポポは一年中花が咲き受粉しなくても結実する。そのため繁殖力が強く、在来のタンポポを追いやるといわれ、都市部ではセイヨウタンポポが目立つ。「共生の森」には外来の植物が多いが、タンポポに関しては、街の中であまり見られなくなった在来のカンサイタンポポも見られる。今後どうなるか要観察。2種類のタンポポの見分けかたは、総苞が反り返っているのがセイヨウタンポポ、反り返っていないのが在来タンポポ。2種の交雑が進んでいるともいわれている。

見かけた植物･生き物

カリン

ウバメガシ

ナガミヒナゲシ

ミヤコグサ

センダン

クヌギ　新葉

オオクビキレガイ　大阪初登場

Ｗポンドで「オオクビキレガイ」という陸生の貝が見つかった。すでにかなり繁殖している。地中海原産で日本への侵入経路は不明とされる偶発的移入種。これまでに九州北部と山口県、和歌山県田辺市で確認されている。貝の先は欠け落ち、中からフタをするとのこと。植物からカタツムリまで食べる雑食性で、生態系への影響が心配されている。

キアゲハ

ツチイナゴ

ギンヤンマ

カナヘビ

哺乳類のフン

カワウ

オッタチカタバミ

キュウリグサ

オオバナコマツヨイグサ

フラサバソウ

ノミノツヅリ

スズメノエンドウ

植栽地の状況

3 月植栽の箇所はまだ植えたばかりで、草がすくない。マルチングの間から少し草が伸びる。

11 月植栽の箇所は、マルチングなし。草が腰ぐらいの高さまで伸びている。これまでの状況から、マルチングは初期の段階では効果を発揮する。

対岸はシャープ工場

「共生の森」の植物　平成22年5月30日

オオキンケイギク（キク科）

花が見栄えすることと、繁殖力が強いことから観賞用、緑化用として日本に持ち込まれた、北アメリカ原産の植物。「共生の森」では、それほど多くないが、ところどころで見かける。全国のあちこちで栽培されていたが、ある日突然、「外来生物法」の「特定外来生物」として指定された（2006年）。在来生態系への影響を及ぼすということで指定された悪役植物12種の一員。まさに、日本に持ち込まれたのと同じ、繁殖力が強いというのがその理由。きれいな花なのでつい持って帰ると「懲役 3 年以下又は 300 万円以下の罰金」が科せられる場合がある。かつての人気者が今や押しも押されぬ、札付のワル。

ハシボソミズナギドリ

猛禽類に襲われた、「ハシボソミズナギドリ」頭を落とされ、内臓を食べられていた。

セッカ

キジの卵

キジのタマゴが 7 個あった。無事に巣立つのは何羽になるか。

ハマヒルガオ

ヒルザキツキミソウ

ヒメジョン

クスダマツメクサ

コメツブウマゴヤシ

不明

チガヤ

コバンソウ

ヘラオオバコ

見かけた植物・生き物

センダン

シャリンバイ

ヤナギハナガサ

グラジオラス

H20　2月　植栽箇所

苗木が隠れるくらい草の背たけが伸びてきた。イネ科の草が多い。

アカバナユウゲショウ

ナヨクサフジと アオハナムグリ

メガソーラも徐々に完成してきた。「共生の森」の草の緑が濃くなってきた。

「共生の森」の植物　平成22年6月27日

ネジバナ（ラン科）

小さな花がいくつも、らせん状につき、ねじられたよう。一度名前を覚えると忘れない。右巻きと、左巻きのどちらもある。ラン科ということで、小さな花をよくみてみると、確かにランのような花。
都市部の芝生など背たけの低い草地に普通に生えるらしいが、あまり見かけない。
ネジバナは、今回、「共生の森」に初登場。苗畑用の土に混ざってやってきたのではとのこと。
いろいろな方法で植物は生活圏を広げている。

見かけた植物・生き物

アレチハナガサが優勢な場所

ノラニンジンが優勢な場所

ハマベアワフキ

ツチイナゴ

ゴマダラカミキリ
「共生の森」では初見

ウメエダシャク
幼虫はシャクトリムシ。蛾の成虫は蝶より嫌われるが幼虫は蝶より人気

シロテンハナムグリ
←モモに群がる
↓ ノラニンジンに

ノラニンジンに集まるムシ（3枚）

コアオハナムグリ

アカスジカメム

ベニシジミ

ツバメシジミ

メス

オス

ナミテントウ・マサキ(花)

ナナホシテントウ

マルカメムシ

メリケンガヤツリ

シュロガヤツリ

ハナハマセンブリ

ハマユウ

アメリカオニアザミ

ビロードモウズイカ

下刈り（H21植栽箇所）

苗木の位置がわかりにくいほど草が生長。
去年の同時期はナンキンハゼが満開だったが
今年は少し遅れている。ハチも　少なかった。
これからまだまだ草が伸びそう。

花が目立たなくなり、昆虫の密度が高くなってきた

「共生の森」の植物　平成22年7月25日

アキニレ（ニレ科）

荒地などに育つ樹種。「共生の森」に自然に生えている木には、鳥に種を運ばれるものが多いがアキニレの種は風に運ばれる。
また、外来種の多い「共生の森」で、生活圏を広げている在来種のひとつ。「共生の森」に点在し、かなり大きくなった木もある。

アキニレは乾燥や大気汚染に強く、街路樹や公園などにも植えられている。大阪の街なかでも自然に生えているのを見かける。葉は小さく厚めで、乾燥に適している。和名は花が秋に咲くことから。

「共生の森」でみたのは初めて。かなり多くいた。黒い羽と、チョウのようにひらひらと飛ぶのが特徴。大阪府内では、あまり見かけなくなった。「共生の森」に定着するか。

南方系のセミで温暖化に伴い北上しているといわれている。大阪の都市部のセミはほとんどこれ。「共生の森」ではクマゼミしか確認されていない。木の年齢が浅く、まだ、抜け殻はない。

ショウジョウトンボ♀

アオスジアゲハ

フタモンアシナガバチ

ツユムシ

トノサマバッタ

コガネグモ

トキワススキ

ヘクソカズラ

エノコログサ

見かけた植物・生き物

ウイキョウ と
シロテンハナムグリ

ナンキンハゼ と
シロテンハナムグリ

アカツメクサ

アメリカノウゼンカズラ

イチジク
自然生え

ノラニンジン と
アカスジカメムシ

下刈り（H22年2月植栽箇所）

今年の２月に植栽した箇所の草刈り。背丈は高いが、マルチングの効果もあり草の密度は低く、草は刈りやすい。

H21植栽箇所

草を刈っているとカマキリや、バッタがたまらず逃げ出す。飛び出した小さな虫をねらい、ツバメがやってくる。

逃げ出すカマキリ →
まだ羽は、はえていない。

「共生の森」の植物　平成22年8月29日

エノキ（ニレ科）

「共生の森」に自然に生えているエノキは種が鳥に運ばれて来たもの。エノキの実は鳥に好まれ、葉は国蝶オオムラサキやゴマダラチョウなどチョウの幼虫のエサになっている。

エノキは公園や神社などに植えられている。道端や小さなスペースにも生えてきており、街なかでもよく見かける。近鉄富田林の駅前にも大きな木が残されている。エノキは大きくなることから昔、街道沿いの一里塚に植えられた。東高野街道に残る「錦織一里塚」は大阪に残る数少ない一里塚。そこには今もエノキが残る。

ゴマダラチョウ　「共生の森」では初めて見る。イチジクの樹液にむらがっていた。昆虫の足は6本と教わるがゴマダラチョウの足は4本

ギンヤンマ

アオモンイトトンボ

ショウジョウトンボ

イチモンジセセリ

マダラバッタ

ナガコガネグモ

花にとまる虫を待ち構える
チョウセンカマキリ

今年一番の暑さを記録したこの日、**フタモンアシナガバチ**は狩に出かけず、巣を覆うように集まっていた。

見かけた植物・生き物

アレチムラサキ

クズ

シュロカヤツリ

オオオナモミ

今年は雨が少なく、センダンの下に生えているセイタカアワダチソウは、センダンに水をとられサークル状に枯れている。

はじまりの森（H19年11月植栽箇所）

7月に草刈りをしたところは今月はセイバンモロコシに覆われていた。セイバンモロコシは草刈りの未実施部分には生えていない。草刈りの時期やタイミングによりその環境に適した草が生えてくる。

海側の木の生長はよくないが、反対側の斜面の木は人の背たけよりも大きくなっている

「共生の森」の植物　平成22年9月26日

ムクノキ（ニレ科）

ムクノキの実は秋に黒く熟し、種は鳥に運ばれる。実は、特にムクドリに好まれることから、「ムクノキ」となったとか。「共生の森」では、トウネズミモチ、エノキ、センダンなど同じく種を鳥に運ばれる樹種が自然に広がっている。ムクノキはそれらの樹種に比べると、「共生の森」で自然に生えているものが少ない。他の木に比べ広がりにくいのには何か訳があるのかもしれない。

葉の表面は、ヤスリのようにザラつき、エノキやケヤキの葉と区別できる。昔は、この葉を乾かし、べっ甲や象牙、漆器の仕上げのサンドペーパーとして使われた。

見かけた植物・生き物

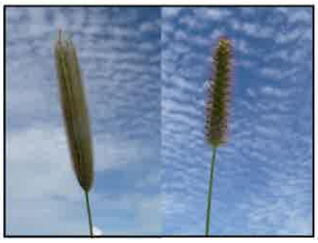
タマスダレ

ツユクサ

キクイモ

ニ　ラ

フヨウ


オヒゲシバ　ｺﾂﾌﾞｷﾝｴﾉｺﾛ

記録的な猛暑も収まり、
ようやく秋の空になってきた

トノサマバッタ

クルマバッタ

ウスイロクサキリ

ツユムシ

エンマコオロギ

ブチヒゲカメムシ

アカスジカメムシ
コアオハナムグリ

アオドウガネ

ヤハズハエトリ♂

オニグモ

ムモントックリバチ？

カワウ

ハマシギ

コアオアシシギ

アオサギ

魚を食べるミサゴ

去年のハヤニエ

遷移の連鎖

「共生の森」に自然に
生えたフヨウ

フヨウにやってきた
コアオハナムグリ

ﾋﾒﾊﾗﾅｶﾞﾂﾁﾊﾞﾁ♂
コガネムシハンター

はじめ何も植物が生えていなかった「共生の森」にどこからかフヨウなどの荒地に強い植物の種が運ばれてきて花を咲かす。花が咲くとそれを目当てに、どこからともなく、ハナムグリがやってくる。ハナムグリやコガネムシの仲間がいるとヒメハラナガツチバチがやってくる。このハチは土の中のコガネムシ類の幼虫をみつけ卵を産みつけるコガネムシハンター。

こんな連鎖がそれぞれの植物、生きものの間で起こり、環境が、次第に新たな段階に遷移していく。

「共生の森」の植物　平成22年10月31日

キリ(ゴマノハグサ科)

街の中の空き地や、山の中の林道沿いなどで、とんでもなく大きな葉の背丈の低い木をみかける。キリの幼樹で葉の直径は50cmくらいある。

種は風に飛ばされるようにできており、生えている場所をみると荒地に最初に生える先駆種のように思える。ただ、荒地の多い「共生の森」ではそれほど多く育っていない。写真のキリは大和川河口側に生えている「共生の森」で一番大きなもの。

原産地は中国といわれている。国内で成長する木の中で比重がいちばん軽い。また、湿気を吸いにくく、狂いがすくなく、燃えにくいことなどから箪笥などの家具や下駄、琴など身近なものに幅広く使われてきた。

剪定チップの山

チップの山に何かの哺乳類がやってきているよう

アキノノゲシ

ｱｷﾉﾉｹﾞｼにつくヤガ
ﾎｿﾊﾞｾﾀﾞｶﾓｸﾒの幼虫

ヤガ等の幼虫に寄生するアメバチの仲間

フヨウにいた昆虫
アブラムシを食べるナナホシテントウ親子

ヤガの仲間
フタトガリコヤガ幼虫

見かけた植物・生き物

イガガヤツリ

イソヤマテンツキ

カヤツリグサ

ホシアサガオ

マルバアメリカアサガオ

マメアサガオ

オオマツヨイグサ

オオバナコマツヨイグサ

ホウキギク

モンシロチョウ

ヤマトシジミ

ナツアカネ

オンブバッタ ♀

セグロアシナガバチ

フタモンアシナガバチ

ダイサギ

モ　ズ

「共生の森」の植物　平成22年11月28日

イヌビワ（クワ科）

イヌビワは大阪では公園や野山で普通にみることができる。ビワと名がつくがイチジクの仲間。

イヌビワは子孫を残すために、イヌビワコバチ（以下コバチ）と１対1の共生関係を築いている。

イヌビワには雄株と雌株があり、そのどちらにもイチジクがなる。雌株のイチジクは雌花で構成され、雄株のイチジクは雄花と雌花で構成される。コバチはその雄株のイチジクの雌花でしか繁殖できない。雄株で成虫になったコバチが雌株のイチジクに花粉を運びイチジクは受粉する。コバチは雌株の雌花に産卵しようとするが、雌株の雌花はコバチが産卵できないように進化している。無事に雄株のイチジクにたどり着いたメスが卵を産み幼虫はイチジクの中で冬を越す。雌株のイチジクは熟し、鳥によって次の場所に運ばれる。

イヌビワはこうして「共生の森」にやってきた。

モズの　はやにえ

セグロアシナガバチ

コカマキリ

トノサマバッタ

ツユムシ

イモムシ（蛾の幼虫）

トンボ（ナツアカネ？）

「共生の森」でも秋の終わりから初冬にかけて、モズのハヤニエがみられる。トゲのある木にはいろんな生きものが刺されている。「共生の森」では昆虫の割合が高いように思われる。

見かけた植物・生き物

タチバナモドキ

ナンキンハゼ

ナワシログミ

キミガヨラン

アカメガシワ

センダン

アキニレ

シャリンバイ

ノイバラ

池には冬鳥がいる

海を挟んだ対岸は堺2区　シャープ堺工場

「共生の森」の植物　平成22年12月19日

ノイバラ（バラ科）

ノイバラは最近、「共生の森」で分布範囲を広げている。手ぶらで藪に入り、ノイバラに出会うと、そのトゲが服や腕に絡みつき、けっこう痛い。やっかいなトゲに撤退せざるをえない。

5 月頃に白い花を咲かせる。そしてちょうど今、赤い実がなっている。ノイバラは鳥に種を運ばせることで生活圏を広げる。落葉性だが、今年はまだ、葉を落とす気配はない。

世界には数多くのバラの園芸品種がある。ノイバラは在来種で、大阪でも山の伐採跡地など開けたところによく生えている。バラとしては地味な感じではあるが、ノイバラは園芸品種の改良の基本種のひとつとしてバラの世界では重要な位置を占めているとのこと。

見かけた植物・生き物

トウネズミモチ

トベラ

ヤマハゼ

アロエ

ワシントンヤシモドキ
鳥に運ばれてやってきた

ナルトサワギク
特定外来種

冬にも実や花、いろいろなものが見られる

鳥のフンに混ざっていたもの

鳥のフン

分解してみると

ピラカンサ（タチバナモドキ）の枝にオレンジ色の鳥のフンが落ちていた。ピラカンサの実を食べに来た鳥が落としたもの。

ノイバラの実を分解

ツグミ

種は、ノイバラのものだった。ノイバラの作戦どおり、野鳥に運ばれていた。

ベニシジミ

哺乳類の足跡

タチバナモドキ

通常の実

枝の先端に咲く花

その実

12月の「共生の森」ちぬみ山 より南を見る